

地域の相談支援機関

子育て	地域子育て支援センター とのまち 地域子育て支援センター での
高齢者	大師の里地域包括支援センター
障害者	地域相談支援センター さらん

地区の詳しい情報は
ホームページ上の
「川崎区地区カルテ」を
ご覧ください。



川崎区地区カルテ

検索

※相談支援機関の詳細は、資料編の「(1)川崎区の施設案内」(102～106ページ)に掲載しています。

大師第三地区で行った主な取組

テーマ	防災でつながる町づくり
内容	令和元年の東日本台風の被災地域の体験談を伺うとともに、地域防災を話し合うワークショップを行い、災害に対する取組状況や今後の課題等について共有しました。

令和3年度 大師地区地域交流会推進事業 報告書
大師第三地区社会福祉協議会 地域福祉懇談会
「防災でつながる町づくり」
令和3年12月3日(金)13:30～ 大師支所
多摩川流域に大きな被害をもたらした令和元年10月の台風19号。被災地域の体験談を伺い、地域防災を話し合うワークショップに、大師第三地区社協地域から可会長や民生委員23名が参加しました。
●ワークショップの様子を動画で配信中! <https://youtu.be/bBf4dv7ldc>

講演：令和元年 台風19号の経験を通して
中原区上丸子山王町二丁目町会 山川会長、本木防災部長

- 令和元年10月台風19号時の浸水被害状況
- 可会ほぼ全域、400世帯が浸水(多くが床上浸水)
- 約1,000人が地域の避難所に避難
- ポートで救助された方もいた
- 大量のヘドロ、糞尿ゴミの発生

避難所運営に関する教訓

- 避難所開設情報、運営支援要請をいかに正しく伝達・共有するか
- 避難要請をする時に避難所のルールを周知する
- 地域での対応が求められ、自主防災組織中心で避難所を運営した。中学生は大きな力になった
- 防災部と民生委員が連携して、独居老人等の対応が必要

復興活動に関する教訓

- 震災ごみ運搬やヘドロ除去について早期に行政へ依頼する
- 自主防災組織本部の早期立ち上げが必要
- 担い手も被災者なので、必要に応じて、近隣地域へ支援を要請する
- ボランティアの要請や配置等の早期対応

グループワーク 各町内会の防災の取組状況 今後の課題

グループ1 日ノ出町 上田町

- 令和元年台風19号時の状況
- 災害時の協定を結んでいたAOI国際病院に50～80人が避難
- 町内会で車を出して地域を巡回した
- 取組状況
- 2年に一度、情報共有・防災訓練を実施している
- 今後の課題等
- 水害と震災、両方の訓練ができるとうい
- 小中学生も参加した訓練を実施したい
- 避難を呼びかけても、避難しない方もいる。応じてもらうには、日頃からの横の繋がりが重要

グループ2 田町2・3丁目 江川町

- 令和元年台風19号時の状況
- 殿町小は人が溢れ大変だった
- AOI国際病院との協定は安心感がある
- 取組状況
- 殿町と合同避難訓練を不定期で実施している
- 今後の課題等
- 地域が橋で分断されており、災害時にどうなるか不安。普段からの話し合いが必要
- 災害時要援者リストの情報の確認・支援方法
- 地元企業との協力も進めたい

グループ3 殿町1丁目 殿町2・3丁目

- 令和元年台風19号時の状況
- 殿町小、AOI国際病院の他、ラウンドワンに車で避難した方もいた
- 殿町小がいっぱいで、バスで市立川崎高校まで避難した方もいた
- 取組状況
- 年1回、消防も参加して殿町小学校で防災訓練を実施
- 各町会で参加者や役割分担を決めている
- 今後の課題等
- 水位と避難の関係などの情報を地域で共有したい
- 殿町は外国人住民が多く、母国語での支援情報の伝達も課題

グループ4 塩浜 塩浜3丁目

- 取組状況
- 塩浜小学校で避難所運営訓練を年1回開催
- 防災訓練を2年に1回開催
- 町会規模が小さく、防災訓練の実施が難しいが、毎月の大掃除活動で安否確認などができている
- 今後の課題等
- 避難者のお客さんへの対応のために、普段から地域への参加の意識を育てていきたい
- 町会で食料・衣類などの備蓄も考えたい
- 地域の工場と災害時協力の話をしているが、どのくらい協力し合えるか不安

「改めて重要だ」と思うこと

適切な情報発信・共有
近隣自主防災組織・地域住民との連携

防災意識の醸成
継続的な訓練の実施

大師第三地区社会福祉協議会が行っている主な事業・取組

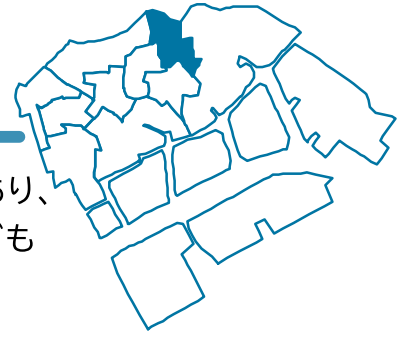
- ・地域福祉懇談会
- ・社会を明るくする運動
- ・ふれあい会食会
- ・赤い羽根共同募金活動
- ・役員研修
- ・敬老行事
- ・車イス体験
- ・福祉教育への協力
- ・子どもの食糧支援「みんなのごはん」
- ・ほほえみ元気体操 など



子どもの食糧支援「みんなのごはん」

8

大師第四地区



川崎大師平間寺の周辺を取り巻く古くからの門前町であり、川崎区役所大師支所がある地域です。大師公園など、子どもを連れて行ける通いの場が充実しています。

対象エリア

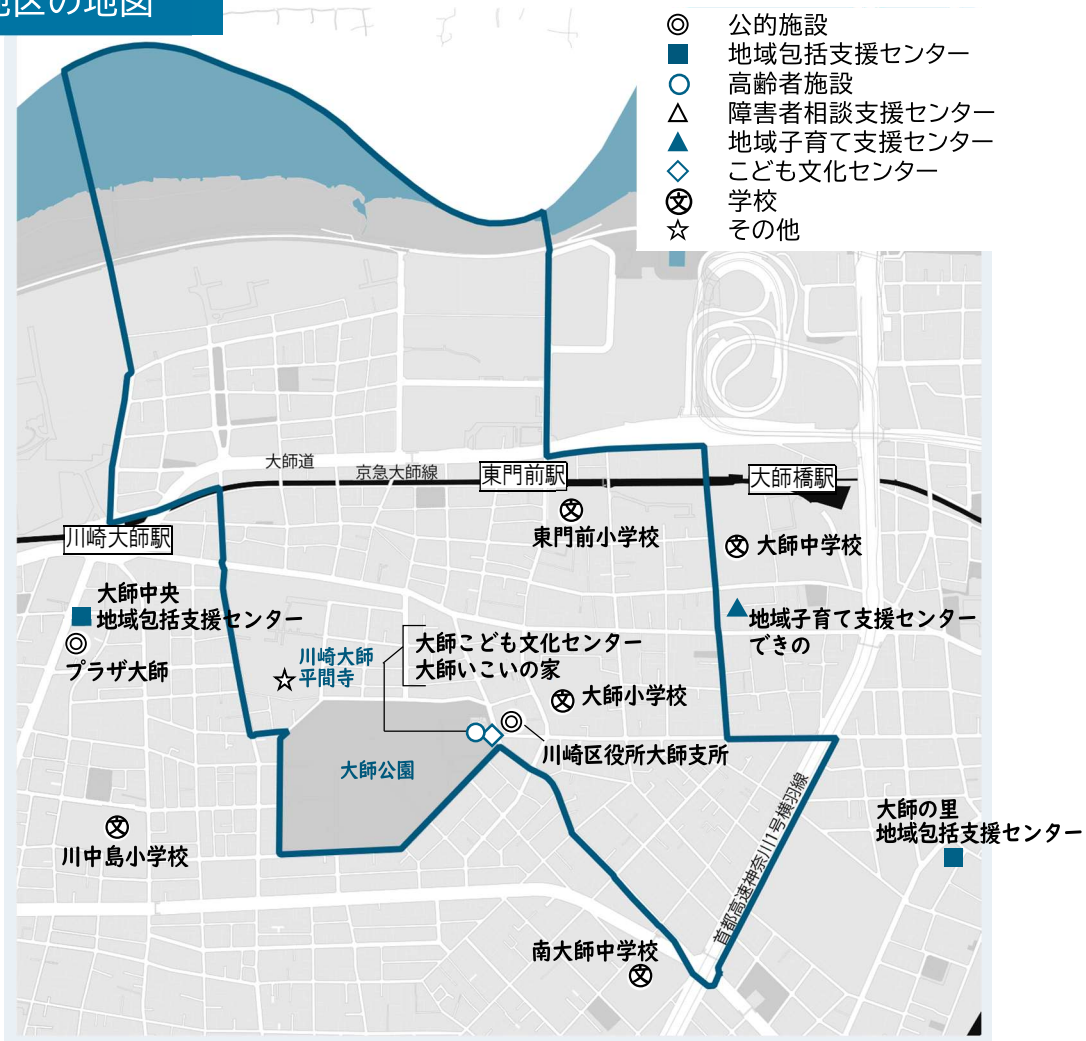
大師本町	大師町	東門前1丁目	東門前2丁目	東門前3丁目
昭和1丁目	昭和2丁目	中瀬1丁目	中瀬2丁目	中瀬3丁目
大師公園				

人口動態

	人口(人)					高齢化率 (%)	世帯数 (世帯)
	地区人口	14歳以下	15~64歳	65~74歳	75歳以上		
平成29(2017)年	17,300	2,714	10,974	1,909	1,703	20.9	8,320
令和2(2020)年	17,546	2,493	11,425	1,820	1,808	20.7	8,797
令和5(2023)年	17,388	2,063	11,695	1,683	1,947	20.9	9,081

資料：川崎市統計情報「町丁別年齢別人口」(各年6月末日現在)

地区の地図



地域の相談支援機関

子育て	地域子育て支援センター できの
高齢者	大師の里地域包括支援センター 大師中央地域包括支援センター
障害者	地域相談支援センター ふじみ 地域相談支援センター さらん

地区の詳しい情報は
ホームページ上の
「川崎区地区カルテ」を
ご覧ください。



川崎区地区カルテ

検索

※相談支援機関の詳細は、資料編の「(1)川崎区の施設案内」(102~106ページ)に掲載しています。

大師第四地区で行った主な取組

テーマ	みんなで知ろう認知症のこと
内容	認知症に対する理解を深める講座を開催するとともに、認知症になっても地域で安心して生活できる意識づくりのためのワークショップを行い、作成したリーフレットを町会や近隣の小学校に配布しました。

大師第四地区社会福祉協議会が行っている主な事業・取組

- ・地域福祉懇談会
- ・社会を明るくする運動
- ・ふれあい会食会
- ・広報紙「しあわせ」発行
- ・赤い羽根共同募金活動
- ・「福祉体験授業」への協力・支援
- ・健康体操講座の開催
- ・地域のボランティアグループの支援
- ・いこい喫茶
- ・ほほえみ元気体操
- ・敬老行事
- ・子どもの食糧支援「みんなのごはん」
- ・大師なかよしひろば など



子どもの食糧支援「みんなのごはん」

9

田島地区



臨海部の企業とともに発展した古い歴史のある地域です。川崎区役所田島支所や教育文化会館田島分館(プラザ田島)といった公的機関や福祉関連施設・拠点が多く存在します。

対象エリア

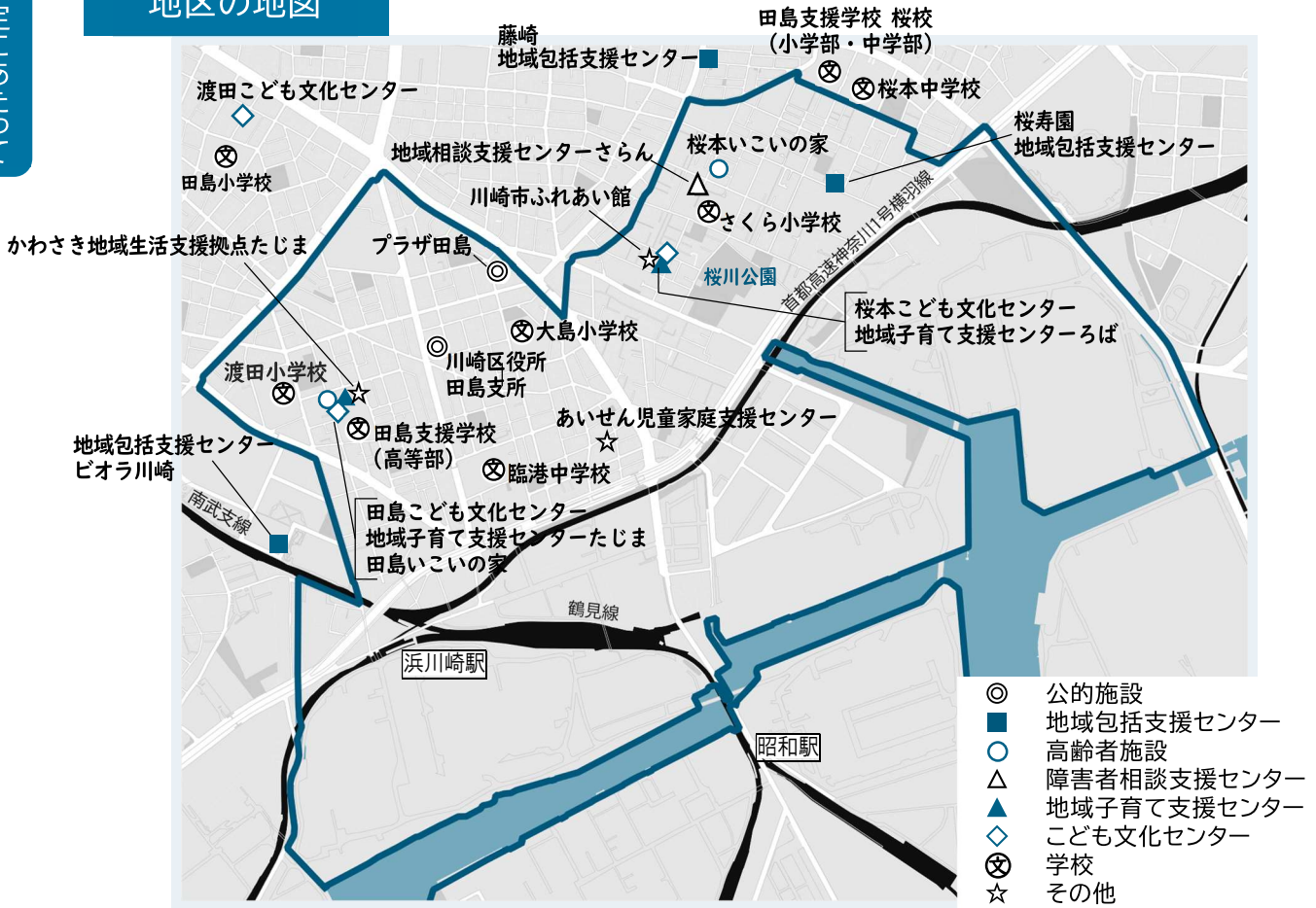
鋼管通1丁目	鋼管通2丁目	鋼管通3丁目	鋼管通4丁目	鋼管通5丁目
浜町1丁目	浜町2丁目	浜町3丁目	浜町4丁目	桜本1丁目
桜本2丁目	池上町	扇町	田島町	追分町
浅野町	南渡田町	扇島		

人口動態

	人口(人)					高齢化率 (%)	世帯数 (世帯)
	地区人口	14歳以下	15~64歳	65~74歳	75歳以上		
平成29(2017)年	24,810	2,726	15,742	3,373	2,969	25.6	13,187
令和2(2020)年	24,687	2,465	15,769	3,282	3,171	26.1	13,609
令和5(2023)年	23,856	2,172	15,270	3,088	3,326	26.9	13,522

資料：川崎市統計情報「町丁別年齢別人口」(各年6月末日現在)

地区の地図



地域の相談支援機関

子育て	地域子育て支援センター ろば 地域子育て支援センター たじま
高齢者	桜寿園地域包括支援センター
障害者	地域相談支援センター さらん

地区の詳しい情報は
ホームページ上の
「川崎区地区カルテ」を
ご覧ください。



川崎区地区カルテ

検索

※相談支援機関の詳細は、資料編の「(1)川崎区の施設案内」(102~106ページ)に掲載しています。

田島地区で行った主な取組

テーマ	「居場所」について考える
内容	地域における「居場所」や「つながり」について、関係団体と行政が意見交換を行うとともに、地域住民がどのような「居場所」を必要としているかヒアリング調査をしました。

報告書 令和3年度地域包括ケアシステム推進事業 田島地区の地域づくり

田島地区「居場所」について考える

（令和2年度）
コロナ禍で福祉施設に寄せられる相談件数は増加し、内容も多岐にわたるようになり、これではもたない課題が生じる状況の中、田島地区の関係機関が協賛し、意見交換を通じて課題を共有するとともに、今後の支援の在り方を探りました。

【意見交換会】第1回：令和3年1月22日（金）／第2回：令和3年3月11日（木）

（令和3年度）
令和3年度に実施した意見交換を通して、課題を抱えた人の「居場所」や「つながり」の重要性が改めて認識できました。そこで、令和3年度は、関係機関と「居場所」に関する意見交換を行うとともに、田島地区にある福祉施設を利用している住民を中心に「居場所」に関するヒアリングを行い、地域住民がどのような「居場所」を必要としているか調査しました。

【意見交換会】第1回：令和3年6月18日（金）／第2回：令和3年11月25日（木）
第3回：令和4年3月10日（木）

以下5団体と行政が、各団体の利用者を中心にヒアリング調査を実施しました。

（参加団体）
● あいせん児童家庭支援センター
● 桜寿園地域包括支援センター
● たじま家庭支援センター
● ぶらあじろ
● 川崎区社会福祉協議会

調査期間 令和3年12月6日～令和4年1月20日
調査者 109人

調査結果

「子ども」「子育て世代」「高齢者」の各世代とも、「ホッとできる、気持ち落ちる」場所を居場所と感じている人が多くいました。一方で、居場所に対する考え方には、世代ごとに特徴的な点も見られました。

子ども

同世代 自由

普段通じている場所
① 自宅、学校（両方） ② 公共施設 ③ ろーパビングモール

居場所だと感じる場所
① 自宅 ② 公共施設 ③ 学校

地域にほしい居場所・そこから見える状況

- 同世代が集まる場所、賑わいは必要だけれど安心してやりたいことが自由にできる場所、一人で好きなことができる場所を求めている。
- 自由という言葉を思う子どもが多く、みんなで寝たり、一人で静かだったり、それぞれが自由に過ごせる場所をほしいと感じている。目的の無い時間や遊びたいことができる場所があるよ。
- 学校や自宅を居場所と感じない子どももあり、そうした子どもにとっては学習支援などの子どもの居場所事業が居場所の創出につながっていることもある。

高齢者

多世代交流 精神的つながり

普段通じている場所
① 自宅 ② ろーパビングモール ③ 病院

居場所だと感じる場所
① 自宅 ② 公共施設 ③ 地域活動の場（前夜会、サークルなど）

地域にほしい居場所・そこから見える状況

- 多世代交流を求めている。一人ではなく他が一緒に過ごせる場所を求める傾向が強い。
- 居場所を通じて、「誰かに気にかけてもらいたい」「人に役に立ちたい」などの精神的つながりを求めている。「自分を必要としてくれる人がいる」と感じられる居場所があると、高齢者の生きがいになる。身体面とともに、心の面もフレンドリーな場所もある。
- なしみの店員に声をかけられるのが嬉しいが「大きなスーパーでの買い物は難航したが店員が店員と話すことがない」という意見があり、商店街のような個人のお店が美点になっていることもある。
- 何もなくても居られる場所（遊んでいる、お茶を飲む、自由に出入り）を求める声もある。

子育て世代

子どもと一緒に リフレッシュ

普段通じている場所
① 自宅 ② ろーパビングモール ③ 公園、公共施設（両方）

居場所だと感じる場所
① 自宅 ② 公共施設 ③ 公園

地域にほしい居場所・そこから見える状況

- 子どもと一緒に楽しめる場所（公園、遊び場、食事ができる場所など）を求めている。
- その一方で、子どもと離れて一人で過ごせる場所や、肩だけで話ができる場所がほしいと感じている。気軽に安心して子どもを預けられ、話が終わればリフレッシュできる場所も必要という意見もある。
- 公園の遊具が高齢者により置いているが、遊具のない公園でどのように子どもを遊ばせればよいかわからない」との声もある。

（全体を通じて）
● 自分が居場所と感じる場所を通ずる際に、「ホッとできる、気持ちが落ちる」と答えた人が各世代とも多かった。ありのままの自分を受け入れてくれる場所が「居場所」になる。そのような場所が一つでも見えると、心もほぐれやすくなる。

● 世代ごとに求める居場所は異なるが、「子どもは学校や習いごとと過ごすなどの既成のイメージとは異なる居場所を求めている人」も多い。固定概念にとらわれない地域で協力しあう一人ひとりの居場所を育てていくことが大切。

● 居場所の場所に行くことは楽しい、という人もあり、既存の活動に参加しやすくなるようなきっかけづくりが重要。

地域について考える時「地区カルテ」を活用してください
川崎区では地域包括ケアシステム推進の一環として、地区カルテを活用した地域づくりを進めています。地域ごとに人口特徴、地域包括支援センターとめたもので、ほしい等の場で地域の情報を参照しやすくなります。

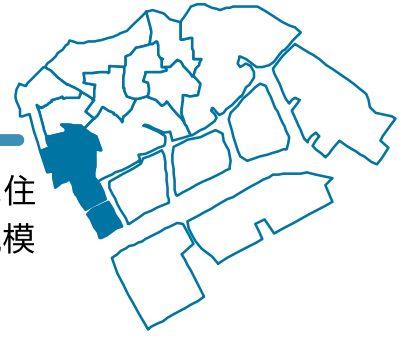
田島地区社会福祉協議会が行っている主な事業・取組

- ・地域福祉講演会
- ・社会を明るくする運動
- ・ふれあい会食会
- ・広報紙「社協田島」発行
- ・赤い羽根共同募金活動
- ・福祉のつどい
- ・カローリング大会
- ・地域福祉施設の見学会
- ・福祉教育への協力 など



カローリング大会

10 小田地区



古くからの住宅が密集している地域であり、小田公園は住民の様々な活動の場となっています。近年、工場跡地に大規模マンションが建設され、新しい住民が増えています。

対象エリア

浅田1丁目	浅田2丁目	浅田3丁目	浅田4丁目	京町3丁目
小田2丁目	小田3丁目	小田4丁目	小田5丁目	小田6丁目
小田7丁目	白石町	大川町	田辺新田	小田栄1丁目
小田栄2丁目				

人口動態

	人口(人)					高齢化率 (%)	世帯数 (世帯)
	地区人口	14歳以下	15~64歳	65~74歳	75歳以上		
平成29(2017)年	32,734	4,586	20,701	3,898	3,549	22.8	15,838
令和2(2020)年	32,717	4,289	20,670	3,901	3,857	23.7	16,412
令和5(2023)年	31,964	3,824	20,416	3,725	3,999	24.2	16,487

資料：川崎市統計情報「町丁別年齢別人口」(各年6月末日現在)

地区の地図



地域の相談支援機関

子育て	地域子育て支援センター あさだ
高齢者	京町地域包括支援センター 地域包括支援センター ビオラ川崎
障害者	地域相談支援センター いっしょ 地域相談支援センター かわさき Life

地区の詳しい情報は
ホームページ上の
「川崎区地区カルテ」を
ご覧ください。



川崎区地区カルテ

検索

※相談支援機関の詳細は、資料編の「(1)川崎区の施設案内」(102～106 ページ)に掲載しています。

小田地区で行った主な取組

テーマ	私たちのまちをもっと住みやすい街に
内容	地域の小学校と共にあいさつ運動を展開し住民全体への周知を図ってきました。今後は住民同士のつながりを強化し見守り活動を発展させていきます。

小田地区社会福祉協議会が行っている主な事業・取組

- ・地域福祉懇談会
- ・地域福祉講演会
- ・社会を明るくする運動
- ・ふれあい会食会
- ・広報紙「小田社協」発行
- ・赤い羽根共同募金活動
- ・役員研修
- ・敬老行事
- ・あいさつ運動
- ・男性の料理教室
- ・福祉教育への協力 など



地域福祉懇談会

(3) 数字で見る川崎区

統計データやアンケート調査の結果から、川崎区の現状を見ていきます。



川崎区の特徴



1

多文化共生のまち

外国人市民が市内で最も多く住んでいる区です。特に区役所管内では全人口の9.9%が外国人市民となっており、様々な国籍の人が暮らしています。

2

ひとり暮らしが多いまち

1世帯に住む人の数は平均で1.83人であり、市内で最も少なくなっています。核家族化やひとり暮らし世帯の増加等に伴い、1世帯当たり人員は減少傾向が続いています。

3

高齢者が多いまち

65歳以上の人口割合が市内で2番目に高くなっています。また、ひとり暮らし高齢者の数が市内で最も多く、男性の割合が多いことも特徴の1つです。

4

昼間人口が多いまち

市内で唯一、夜間人口より昼間の人口が多い区であり、事業所等への勤務などで日中を川崎区で過ごす人が多くいます。また、自宅も職場も川崎区内という就業者が半数を超えています。

5

地区ごとに特徴があるまち

川崎区は10の地域ケア圏域に分かれています。子ども・高齢者の割合や外国人市民の人口、ひとり親の数などは地区ごとに異なり、各地区にそれぞれ特徴があります。